

★神戸の催し物ご案内

2月

★音楽V

★カナディアン・プラス・アンサンブル

5日(火) 6時半 神戸文化ホール 民音/会員・二〇〇〇円

一般・二〇〇〇円

★第4回神戸三曲協会演奏会

10日(祝) 12時 神戸文化ホール 一、〇〇〇円

★神戸市少年団音楽隊合同演奏会

16日(土) 2時 神戸文化ホール 無料

★山下達郎

16日(土) 6時半 神戸文化ホール A・二五〇〇円 B・二二〇〇円

★クロード・チャリ

16日(土) 6時半 神戸文化ホール 一般・二四〇〇円

★美輪明宏

26日(火) 7時 神戸文化ホール A・三〇〇〇円 B・二〇〇〇円 C・一五〇〇円

★直線座「マリウス」

3日(日) 1時半 神戸文化ホール 一般・二四〇〇円

★俳優座「ハムレット」

19日(火) 12時 6時半 15分 24日(日) 1時半 神戸文化ホール 神戸労連・二〇〇〇円

出演/山本圭 磯部勉 香野百合子、山本都子

★第6回市民演劇祭

29日(金) 2時 ②6時 神戸文化ホール 無料

★戦前日活名画祭

2日(土) 10時 「次郎物語」

9日(土) 10時 「風の又三郎」「路傍の石」

11日(祝) 10時 「五人の斥候兵」

11日(祝) 10時 「次郎物語」

「風の又三郎」「路傍の石」

★市民映画劇場「青幻記」

20日(水) ②22日(金) 6時半 23日(土) 2時 神戸文化ホール 四九九円

★第五回神戸音楽教室「野宮」

23日(土) 1時半 淡川神社音楽堂 二〇〇〇円

出演/野村四郎、植田隆之亮ほか

★プロジェクトチーム

「あそびにけるさ土曜日に」

23日(土) 6時半 芦屋ルナホール 二〇〇〇円

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

神戸文化ホール 前売・二〇〇〇円 当日・一五〇〇円

★もとまろ寄席・恋雅亭

10日(日) 6時半 元町・風月堂ホール 一〇〇〇円

★三波春夫

4月25日(金) ①2時 ②6時 神戸文化ホール

★ショウ・ガール

4月30日(水) 6時半 神戸文化ホール

★愛読者招待席

神戸っ子読者を左記の催物にご招待いたします。(10名様)

★三波春夫

4月25日(金) ①2時 ②6時 神戸文化ホール

★ショウ・ガール

4月30日(水) 6時半 神戸文化ホール

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで

★希望の方は電話か葉書で神戸っ子編集部へ優待係へ川崎まで



野宮



ザ・ナック



クロード・チャリ



中村絃子



桂小文枝



関晴子





動物園飼育日記——171——亀井一成

パンダよりロバが好き！



ポートピア⁸¹、いよいよ一年数カ月を余すだけとなった。はからずも⁸¹年3月には神戸王子動物園も30周年を迎える行事が重なることになる。というのも、30年前現王子公園内で神戸産業博が開催され、その会期中にあのゾウの「マヤ子」がやってきたのだ。

博覧会終了後、いったん諏訪山動物園にゾウを収容し一年間の準備期間を経て、翌年トラ、ヒョウ、クマ、サルなどを加え、現在の王子動物園への大移転、そして華々しく開園を迎えたのが3月20日であった。

とにかく、入園者を増やすこと。それには、並べるだけではだめだ。動物ショウに夜間開園、ホタル狩り、野外コンサート、映画会、漫才、パレー、そして、子供のあそび場には汽車やモノレール、飛行塔の他、ロバの馬車も加わり、大変な人気。

ゾウは演芸のあと子供たちを背にのせ一巡し、チンパンジーとオランウータンの自転車、竹馬のあと可愛い魚屋さんというおサル芝居も新聞紙上をにぎわせ、日曜ことのショウでは入園者が納得しないので連日朝・昼2回の公演を飼育のあいまに行なう忙しさが続いた。ロバに乗りたい学童も急が増え、とうとう2台に増車するとい

うレジャーランドとしての動物園に発展して行った。とにかく入園者を増やし増収を得ることが動物園を良くすることになるという考えを現場の一人一人が自覚していたものだった。

十円玉を握った学童がずらりと長蛇の列を作る毎日曜。飛行塔や子供の汽車をしのぐロバの人気は圧倒的だった。

だが、こうしたお祭り騒ぎの動物園春の行事も何時しか一考させられる時代が訪れてきた。夜桜開園でのドンチャン騒ぎにクレームがつき、まず中止。ゾウのマヤ子の死により動物ショウも取りやめることになった。そしてロバへの手紙と題して学童からの一通の投書が舞いこんだのもその頃のことだった。

「小さなロバさんに20人もの子供が群がるように乗り、重たそうに引っぱるロバさんがかわいそう！」という文面だった。

取りあげたある新聞紙上でのロバ論争はこうであった。

「ロバの馬車賛成派意見」

別に坂道でもないし、平坦な運動場をしかも僅か一回50m位の道のりだし、適当な運動になるじゃありませんか、それに汽車や飛行塔なんかは動物園でなくともある。動物園らしい動物の乗り物があつて然るべきではないか。どれ程多くの学童が、ロバを見て、ロバに乗せて貰うことを楽しみに入園しているかお解りにならないでしょう。たった一人の学童の意見をこうも大げさに取りあげることもないのでは。それが証拠に十円玉握った反対の手に大根菜や人参、パンまで持ってきているじゃありませんか。そして、重たそうに見える時には、みんなが馬車のあと押しさえしている姿もあった。

また、ロバというものは生まれつき、荷車



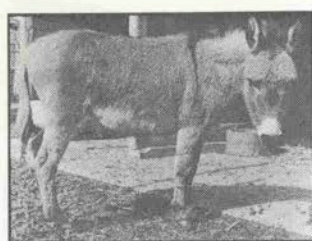
神戸王子動物園の夫婦

を引くようになっており、休ませてしまうと運動不足になって長生きできないのではありませんか。

〔馬車ヤメロ派意見〕

動物園は動物を愛護する場所ではありませんか、しかも汽車や飛行塔という子供の乗物もあるし、第一、金儲けのために小さなロバを使うなどもってのほかや、色々な動物を見せては、生物のすばらしさを教え、いたわりの心を育てる動物園であるはずなのに、重々しい満載の馬車を見た学童が、小さな心を痛めてしまい涙さえ流すんです。園長さんどうかロバを休ませてやって下さい。

さて、結果は一通の新聞社への投書がロバの馬車を中止させることになり、現役を退いた4頭のロバのうち、1頭はすぐ他の動物園に交換転出。馬車担当のおさんは市の職員でなかったため翌日から失職、台車は売却されてしまった。



かつては競馬場で馬の世話をし定年で退職したやさしそうなお方だった。もちろん4頭のロバを交代で休ませ、時には順番を変え、体調をうまく見てやっていたことの説明も、わざわざロバのために元氣をつけてやるんやと漢方薬を買ってきてやったり、欠かさず青草を背おって出勤していたことの事実も記事には書かれていなかった。その馬好きのおじさんが淋しそうに毎日手入に使ったブラシやタオルを片手に「みんな元氣でな、また会いにきてやるさかいな」何度も何度もロバをなでてやり、とほとほと去って行った姿、私ははつきりと覚えている。今、健在なら80才を迎えておられる

ことだろう。
そして足掛け30年。いまでもおよそ32才を迎えるオス1頭が健在で、後ぞえのメスが懐妊中である。

かつて、昭和38年5月、上野動物園にも30才を迎えるロバ一文字号がいた。戦争中負傷兵の輸送に当り終戦後上野に寄贈され、馬車に子供をのせみんなに親しまれていた。しかしよる年波に歯が痛みだした。しかも前歯だったため草も噛み切れないありさま。長寿表彰の候補にあげられたとき、当時の子供動物園長だった遠藤悟朗さんが一枚の表彰状よりも老いた一文字号に役立つ入歯をしてやってはという発案から、日本で初めてロバの入歯をしてやったことあまりにも有名な話である。

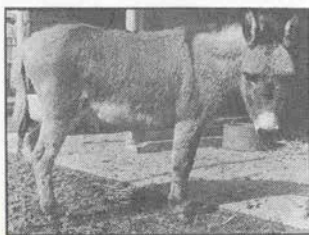
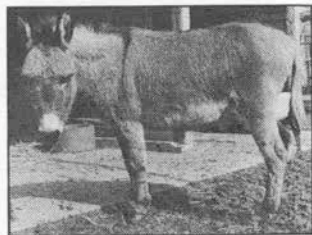
幸にも当園のロバは歯もきれいだし、繁殖さえしてくれそうだ。

「パンダ、パンダと大騒ぎするけど、ぼくは、あんな花形動物よりも古ぼけた家の隅でひっそりと暮している、こんなロバのような動物の方が好きなんです」と、この老いたロバを丹念にぬぐってやりながら、飼育4年を迎えた若い佐々木飼育員の口からこんな言葉が返ってきた。私はうれしかった。彼は「おはよう朝日です」ABC、TV撮影インタビューを努める私のマイクにこう答えてくれたのである。

みなさん、プロ飼育員の手厚い世話で、のほほんと暮す動物園の動物たちの方が野生よりよほど長生きだという事実ご存知だろうか。

△王子動物園学芸員／写真

も▽



幼児歯科 小児歯科

SAMOTO PEDIATRIC DENTISTRY

佐本小児歯科

母親教室

(初診日) 火曜日 午前9時30分

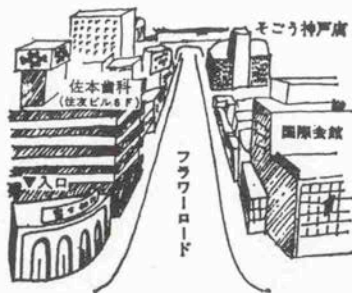
金曜日 午後1時30分

(木曜日は休診)

そごう前センター街東角・さんちか入口
住友銀行三宮ビル6階

〒650 生田区加納町5丁目39

TEL (078)331-6302~3



こんにちは赤ちゃん



東山大志くん/灘区鶴甲

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大柁町1番18号
芦屋市民センター(ルナホール)東南
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

たかはしもう笑品集

ニュース漫画／神戸新聞／笑点／Vを
必死のバッチで描き続けて七、〇〇〇回（二〇年）
／海軍めしたき物語Vが好評の

内容 「最新カラーマンガ」（9頁）

「笑点20年」（36頁）「似顔絵一〇〇人」（54頁）

「ニュースマンガ家の一日」（4頁）

二、五〇〇円
〔送料二〇〇円〕

お申込みは「たかはしもう出版会」（月刊神戸っ子編集部内）

送金方法／太陽神戸銀行三宮センタービル支店普通預金二一五二七〇四「たかはしもう出版会」
または月刊神戸っ子あて現金送金してください。

安心の留学 ENGLAND

お一人でもいつでも
安心して留学できます。

トップナッチは治安よいイギリスロンドンに事務所を
オープンしておかげさまでもう8年目です。

日本人スタッフが日常生活のアドバイスなど
きめ細かいサービスが大変好評です。

●短期4週間から **¥398,000** から
1年間の長期まで、あなたの希望にご相談に応じます。

●
海外留学・海外旅行その他
旅行に関することなら何で
もお気軽にご相談ください。
みなさまのお越しをスタッ
フ一同心よりお待ちしております。

神戸支店長
新井 和宏



運輸大臣登録一般旅行業 第492号 TOP NOTCH INC



株式
会社

トップナッチ



〒651 神戸市葺合区琴緒町5-7

☎ (078) 242-2695(代)

本 社 東京
海外支店 ロンドン／リージョントリート
バリ／シャンゼリーゼ通り

●小山乃里子の

華麗なる食べある記



△27▽すばいすれすとらん ぶはら
△28▽レストラン フック

□ぶはら

★シルクロードの雰囲気満喫、スパイスも四十種

いつの日か、シルクロードをたどりたいと思う。昔、ヘディンの中央アジア探検記なる本を読み、さまよえる湖「ロプノール湖」に夢をはせた。井上靖の「敦煌」も輪をかけた。そんな私に、今日は嬉しいお店の紹介である。

すばいすれすとらん「ぶはら」。ブハラとは、ソ連ウズベク共和国の古都の名であり、その街の中、たくさんさんの遺跡があることで知られている。中山手の北野坂、ソネの向いっ側の、地下へと通ずる階段、もうその壁からシルクロードの写真などがはってあり、雰囲気は充分。扉をあけると、七、八坪の面積にテーブルが四つ。まっ先に奥の四角いタンスに目がいった。江戸時代あたり、薬屋さんなどにあった百味ダンスというやつで、ひき出しが全部で八十一ある。その中にぎっしりスパイスが入っている。まあ聞いてびっくり、スパイスって百二十から三十多種類があるそう。日本で作れるものは数少なくほとんど輸入に頼っている現状で、それでもこの店は四十種位を置いてある。テーブルの上にもすでに何種類か。

匂いでもわからない。「タイム」「マジヨラン」「ニツキ」
「グリーンベツバー」「クローブ」「ターメリック」。

さて肝心のお料理は、と、メニューを見ても、も一つよくわからないからコースに頼ることにする。まずはアペリティフ。スパイス入りのオールボー・アクワヴィーフト。北欧のお酒である。かなりきついのに口当りはパツダン。パドワというスパイスせんべいが出た。パリパリとしていて、これはこしようにと塩入り。豆と野菜のスープ。インドから中近東にかけてこのスープが朝の街で売られているそう。あー、行きたいなあ。サモサ、これは知ってる。インド料理で良く食べた。横についてる緑色のものは何だ。へえー、ハーブとレモンと玉ねぎをすったものですか。ハーブはのどの痛みに、私の愛用品なのけど、こんな色してるのかあ。中近東原産というなすのサラダ。セロリをこまかく切ってまぶしてあるのが実にさっぱりした味である。おなじみのシシカバブが出て来た。シシは串、カバブが焼くという意味だ。そう、インドみつば（いんさい、コリアンダーともいう）の線があざやか。小さなこんろの上で、ぐつぐつと煮えて来たのがラム鍋（ローガンジョーシ）。ラムをこしように、カルダモン、クミン、コリアンダー、しょうが、玉ねぎなどの中につけ込んでギート（油）でたくのだが、



▲約40種類のスパイスを駆使。手前左がシシカバブ。
右はラム鍋。上の三角形がサモサ。

「スパイスは香りと色と辛みの三要素が大事です」と
話す松山道夫さん。



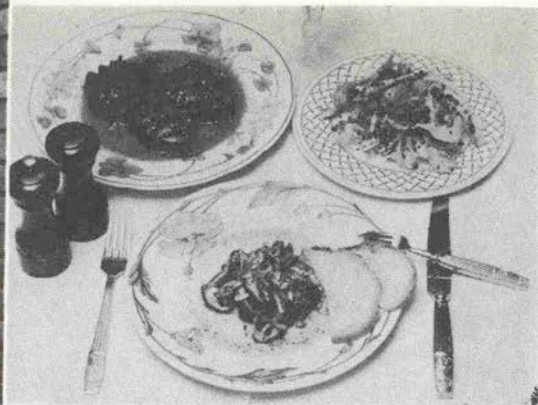
「あー、こっちはです。あのカウンターの横をずっと奥へ……」「ええっ。前はここ壁とちやいましたか?」「はあ、一年前、こちらにも部屋を造りました」奥まった部屋、まず目についたのがワインカラーの長椅子だった。なんともいえない素敵な色で、いっぺんに気に入った。料理

恥をかくまいぞ。
扉をあけてくれたのは異国の人だった。階段を上る足音で美人がわかつちやったのかなあ。にっこり笑って、サンキュー、と勝手知ってるでい左へと歩き出したら「あー、こっちはです。あのカウンターの横をずっと奥へ……」「ええっ。前はここ壁とちやいましたか?」「はあ、一年前、こちらにも部屋を造りました」奥まった部屋、まず目についたのがワインカラーの長椅子だった。なんともいえない素敵な色で、いっぺんに気に入った。料理

★ステーキ、ワイン、世界の料理が楽しめる

□ フック

お肉のやわらかいこと。これはおいしい。えっ、まだあるんですか。野菜カレーをサフラン御飯でいただくって、入るかなあ、お腹いっぱいなのにといいながらペロリと食べた。
カルダモンというアフガニスカンのお茶を飲んで、ふと天井をみ上げれば赤と黒の素敵なまよう。シルクロードへは仲々行けそうもないから、これからはここです。しの雰囲気だけでもひたりに来よう。
シシカバブ／1450円 ラム鍋／1600円 各種カレー800円／950円 スパイスティ／350円 ぶはらコース／2000円
生田区中山手通1-19 クランヤマテビルB1 電話2411-7017
午前11時半～午後2時 午後5時～9時 日曜休



▲手前がバターの香り豊かなエスカルゴ森林風。上左は三種のペパーを使って焼いたペパー・ステーキ。

「日本の材料でフランス料理を、というのがこれからのいき方だと思います」と話すシェフの茅切勇さん。

を食べに来てまず椅子をほめちやあ悪いかなあ。まあしかし、おいしく料理をいただくには、その部屋の雰囲気ってものがとても大事だと思うけど。

シェフの茅切さん。オリエンタルホテルから六甲オリエンタル、そして請われて十年前。このフック神戸店開店と同時にこちらに移ったお方。顔つき、言葉づかい、やさしいのです。この料理は、フランス料理を基調としたヨーロッパ料理ということで、まずはエスカルゴの森林風。去年の秋から新しくメニューに仲間入りしたものの。エスカルゴの殻蒸し、つまり、身と、しめじ、えのきだけ、マッシュルーム、なめこなどをいためてパセリのみじん切りを上に乗せている。しめじなど全て日本で作れるものを使っている。この全て日本だとれるものを使っているフランス料理、というのがシェフの一つの信念のようである。

白、黒、グリーン、三種のペパーを使って、ペパーステーキ。ころころところがる山椒をお肉につけて食べる。肉料理は、まあいわばフックの看板だから、口の中であろけるような甘さというか香りというか、やわらかさは言うまでもない。

サラダの上に、ペーコンをカラカラに焼いてこまかくくだいたものが乗っている。これがまたドレッシングとうまく合って、くどくなく、さっぱりしている。デザーは、なんと牛の脂を使ったプリン。どんなものが出て来るやと思ったら、ラム酒につけたプラムケーキ。中に入っている白いものが牛の脂なそう。季節でデザートは色々変わるらしい。

最後にもう一つ。ワインのグラスが、一つこっそりもって帰ろうかと思う位気にいった。

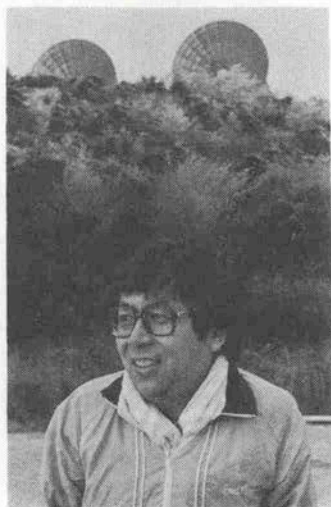
始のスーパフック風／600円 スモークサーモン／1000円 ソー
ルメゾン／2300円 ペパーステーキ／5000円
神戸店・生田区栄町通2丁目24番32113453
午前11時半～午後2時 午後5時～10時半（ラストオーダー） 日曜／午
後4時～10時 無休
大阪店／大阪市北区兎我野町 番06-3131213050

護国神社―杣谷―杣谷峠―丁字が辻―一軒茶屋―魚屋道―有馬温泉

六甲最高峰のアンテナ

久保田 武

△日刊スポーツ新聞社校閲部長▽



六甲最高峰下にて筆者

たあとで、案内役の小泉正巳さんは「六甲最高峰は、あそこだよ」といった。

麓にある護国神社から長峰中学、カナディアン・アカデミーの、ものすごい急勾配の坂道に、ド肝を抜かれ、ちようどぶつかった登校時の中学生と、その坂道をいっしよに登りながら「こんな坂を毎日登って学校へ通っているんだから長峰中学の生徒には肥満児はいないだろうな」と胸のうちでつぶやいていたころは、まだよかった。これより「杣谷峠へ」という標識のあるところを、しばらく行くと大きな岩や石ころの道が急にせばまる。砂防ダムでも作っているのだろうか。いまままで登ってきた川のある道を、こんどはウ回ししなければいけない。その仮設道の高さまで丸太ん棒のハシゴが垂直のような角度でかかっている。一生懸命つかまりながら、やっと登る。「えらいところへ、つれてきて」と、このルートを選んだ小泉さんが、うらめしい。

川床に、大きなブルドーザーが一台。工事中のものなのだろうが、あたりに人かげが見えないから、まるで捨てられたように放置されている。石ころばかりの道もないところに、どうして運んできたのだろう。三人の結論は「ヘリコプターやないやろか」ということに落ちついた。

やっとの思いで、通常の登山道へ出る。途中から石段がつづく。底の厚い登山靴をはいた小泉さんやSさんは、石段が苦手なようだ。急に、パアッと、神戸港から大

「開いてる！開いてる！開いてます！」カメラマン役の編集部のSさんが、振り返って叫んだ。三人とも空腹だった。そのうえ、寒かった。こんな寒い季節に登山する変わり者は、そんなにいない。店もやっていないんじゃないかという心配が、三人の頭の中にはあった。でも、それはよけいな心配だった。

それまで私は六甲山頂は十国展望台のあるところとばかり思っていた。だいたいが方向オンチだし、地形の高低などわかるはずがない。一つの「目的地」一軒茶屋は、わずかな下り勾配がある道の右側にあった。そこで私たちは、温かい「ぜんざい」をかきこむようにして食べた。

店の前を通っている道はさんで向う側がちよつとした高地になっている。その上に、ばかでっかいパラボラアンテナが見える。「ぜんざい」を食べて、体が温まっ



魚屋道にて。後方に樹氷で白く見える六甲最高峰をのぞむ。筆者<右>と小泉正巳さん

阪湾へかけての眺望がひろがる。すごいながめだった。目が洗われる、というのは、こんなときの表現なのだろう。太陽の光がハレーションをおこして、海が銀色にひかっている。その色と空の色が融けあって、水平線がどこにあるのかわからない。空と海とが一つになった景色が、目の前にあった。

どのあたりからか、白いものが舞いはじめていた。山の上は雪空だった。山の天気は、一瞬にして変わる。小雨が雪に変わり、しかもそれが激しくなつたかと思えばビタリと止む。こんどはガスだ。山のずっと上の方から

流れてきて、いつのまにかあたりを覆う。つぎの瞬間、雪が走る。激しく走る。被服を通して、その下の皮膚がキューンとひきしめる。歩く、歩く、休んではいられない。

私は、幸運だった。小泉さんは「おとしから六甲に登ってるけど、はじめてや」と、感心したようにいった。Sさんは「満開の桜みたいですね。きれいなナ」と、カメランの目でいった。「樹氷」だった。私にとっては、二十年ほど前に雲仙で見て以来の、樹氷だった。

樹氷に会うあたりから、バラボラは見えていた。でっかいナーと思ったが、ただそれだけだった。

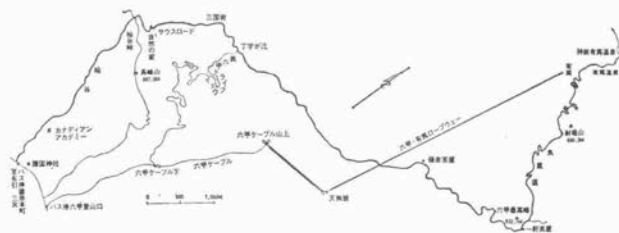
一軒茶屋の若主人に、お話をきく。

「あのバラボラは、どこかのテレビ局のものでしょうか？」

「あれはアメリカのものですよ」と若主人。

「えっ、まだアメリカが日本におりますのん？」と、こちらはとんちんかん。

「二十二年に接収されたままやと書いてます。佐世保と横田とこだけらしいですね」
いま、小泉さんに教えてもらったばかりの六甲最高峰、神戸の人たちみんなが「六甲さん」と親しんでいる山のてっぺんに外国の基地がある！
むかし、神戸の住吉でとれた魚を有馬へ運んだという魚屋道（とやみち）を下りながら、そのことばかりを私は考えていた。



須磨―宝塚間56キロ初体験記

・六甲山100コース

挑戦！六甲全山縦走

酒井 茂樹

△NHK神戸放送局アナウンサー▽



菊水山頂へ向う筆者

百戦練磨の山好きのみなさんが執筆する、こんなコナーに、私のような山に関して全くの素人が、顔を並べていいのだろうか。それも六甲登山の総仕上げともいべき、六甲全山縦走(56キロ)をテーマにとりあげるなんて……。

NHK総合TVの近畿の話題「チャレンジ六甲全山縦走」(11月14日午前7時20分放送)を、ごらん頂いた方なら、おわかりと思うのですが、これには深い理由があるのです。

六甲全縦走とりあげようという番組の企画会議の中で「参加者をサイドからクールにリポートしよう」というリポーターの私の意見に対して、担当のプロデューサー達は申し合せたように、「番組としては、リポーターみずからが、全縦にチャレンジした方がおもしろいと思う」と、主張するのです。「そんなこと言われたって、何のト

レニングもしていないし、10キロそこそこならいざ知らず、56キロなんてとんでもない。途中で、ダウンして番組の中で笑いのものにされるのはいやだよ」こう主張はしてみたものの、多勢に無勢、とうとう無謀な挑戦を強いられる羽目となってしまったのです。そして、私が承諾すると、プロデューサー達は、ニヤニヤ笑いながら「同じ歩くなら、いかにもベテラン山男風に、衣裳がきまっている方が、落伍したときにおもしろいよ。今すぐ、登山用具店に行って、衣裳をそろえよう」「何を言うか、ひとの気も知らないで」かくして、私は、はいたこともないニッカボッカに登山靴、さらに、チロリアンハットと、いかにも健脚そうな山男に変身したのであります。

眠れぬ夜があげた。全縦市民大会の行なわれる11月12日(日)の朝まだ暗い午前5時、きのうからの雨もやんで絶好のハイキング日和になりそうです。スタート地点は、須磨浦公園。前夜から、寝袋で泊り込んだ人も含めて、もう千人近い人が、スタートを待っています。みんな、この日のために、早朝登山やマラソンで訓練してきた人達ばかりです。そして私は、プロデューサーやカメラマンの冷やかな(私にはそう聞こえた)「頑張てよ。いつ棄権してもいいからね」の声を背にうけながら5時10分、スタートしたのです。まず、目指すは、鉢伏山(246m)。スタート後10分。だめです。慣れない登山靴なんかはいたせいか、もう足が痛いです。「こんな状態では半分も行かないうちに、棄権しなければならぬか



朝日を受けて須磨高倉台の階段を登る。350段もあるのだ。

もしれない」そんな不安が頭をかすめました。せっかく登りつめた横尾山(310m)をおりと、そこは北須磨の新興住宅地。このあたりが、午前7時。第一チェックポイントの萩の寺を過ぎると、またまた急な登り。高取山(320m)をめざします。「神戸市の野郎め、こんなところを住宅開発するから、昔、尾根つづきだったところが、谷になって、登ったり下ったりしなければならんだ。チクショーム」などと、変なところに怒りをぶつけながら歩き続けます。スタートから20キロ地点の菊水山(499m)を必死の形相で登りつめると、車で先まわしたプロデューサー達が、「そろそろ棄権する?」と聞きながら、カメラを回します。画面に向かっていい顔したいけど、そんな余裕は、全然ありません。そして、今の気持ち、カメラに向かってしゃべってくれ、あるいは、取材のヘリコプターに向かって手をふってくれなどの仕事をさせられて、菊水山をあとにしたのは、もう11時をはるかにまわっていました。そして、足をひきずるようにし

て再度山(469m)から、あの地獄のような急な天狗道を過ぎて、摩耶山頂(699m)にたどりついたときは、3時をまわっていました。摩耶山頂ロープウェイのそばを通ったときの、これに乗れば帰れるんだという誘惑は、今でもはつきり覚えています。このころになると、ともかく足が、ただ交互に、前に出ているだけという感じなのです。第三チェックポイントの六甲ゴルフ場に着いたのは、もうあたりも暗い、締切り時間一分前の午後4時59分。それから歯を食いしばって最終チェックポイントの東六甲縦走路分岐点に着いたのが、締切り時間の6時30分。当然のことながら、私が、最後尾ということになってしまったわけです。

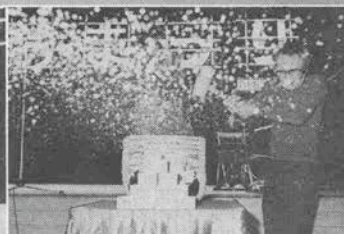
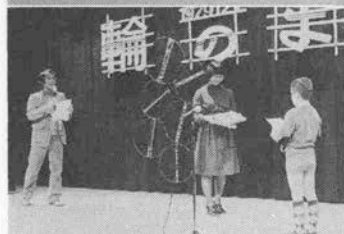
あとゴールまで15キロ。ここからは、ほとんど下りばかりとはいえ、ひきつった足の痛さは、下りがいちばんこたえます。私の前後を、まっ赤な地に「最後尾」と白く染めぬかれたゼッケンをつけた係の人達がついて歩いてくれます。ヘッドランプをつけて、それこそ一步一步を数えるようにして歩くこと、3時間。ついにめざす宝塚の灯が見えてきました。そして、その灯を見ながら、さらに一時間。「もう少し、もう少し」何度、頭の中で反復したことでしょうか。武庫川にかかる大橋を渡るともうそこは、ゴールの阪急宝塚駅南口です。係のみなさんの拍手の中で、ゴールイン。ついにやった! 恥ずかしいけれど、急に涙が出てきて仕方がないのです。ときに午後11時15分。スタートから、もう18時間が過ぎていました。

というわけで、今回は景色を楽しみながら歩くなんて余裕は、全くありませんでしたが、次は、もっとトレーニングを積んで、山歩きの楽しさを味わいながら歩きたいものです。

でも完走を果たした今、六甲連山を見あげるたびに、何かしら、どんな困苦も切り抜かれるという自信が湧いてくるのです。人生に自信をなくした方、あなたも挑戦してみませんか? なんて、大げさかな。

●詩誌「輪」50号・25年

合同出版記念会など 輪のまつりが開かる



上左 輪同人勢揃い 祝辞は小林武雄、小島輝正、増井不二也氏。

左下は、灰谷さん司会による子供の詩と大人の詩コーナー、下中は春木一夫氏の鏡割りはお覧のとおりすこいのだ。

『五十号である。もう五十号になるかとも思い、まだ五十号にしないかならないかとも思う』と後記にあるように詩誌「輪」が創刊五十号を迎え、それを記念して去る12月2日農業会館に於て輪のまつりが開かれた。一九五五年五月一日に創刊されたので足かけ25年になるという、まさに戦後の現代詩の歴史がそこに集録されているといっても過言ではない内容の充実は、赤松徳治、伊勢田史郎、岡見裕輔、海尻巖、各務豊和、貝原六一、北見哲哉、桑島玄二、里見一夫、直原弘道、坪谷令子、なかげんじ、中村隆、布村寛、灰谷健次郎、丸本明子という同人の顔ぶれを見ても推しはかれる。

輪のまつりは「自分の血肉の中のある部分」と思っているだけに最初に挨拶と指名されただけでも胸が一杯」小林武雄氏。「今後小骨を楽しみながら輪の精神を大事にして欲しい」小島輝正氏と祝辞が続く、同人の合同出版会が第一部、第二部は子供の詩と大人の詩をユーモアたっぷりに対比させたりのアトラクションがプログラムされ夜が更けるまでなかなか会となった。同人を代表して中村隆氏の「相変わらず地味で着実に牛歩の姿勢を崩さず歩んでゆきたい」という言葉が象徴的な「輪」の今後の発展を期待したい。

話題のひろば

<II>

●クラブ小万30周年謝恩パーティー 華やかに あでやかに…



(写真上) 右・あいさつをするママ、中・見事な鏡割り、左・歌う橋幸夫 (写真下) 京都祇園連のきれいだころが揃って華やかなパーティのオープニング

「いよーっ」、意勢のいい掛け声に続いて、「チョーン」と拍子木が入る。京都祇園連の綺麗どころがあでやかに会場へと繰り出す…。昨年十二月一日(水)午後六時からオリエンタルホテル大宴会場で開かれた、「クラブ小万30周年謝恩パーティー」の華やかな幕開きだ。

神戸の経済界のお歴々を約二百五十名招待して開かれたパーティーは、「さすが、クラブ小万」と思わせる、実に盛大な会であった。

京都祇園連の「手打」七福神花くづしに続いて、ママの岩本起代子さんが、万感の思いを込めて、鏡割り。見事、四斗樽が開いたところで、全員による三七七拍子。

そのあと、神戸福原連による踊りが続き、博多出身のママのために、博多からかけつけたお姐さん方によって「博多節」「黒田節」が披露された。

神戸花隈連の踊り、京都先斗町連の素囃子で一たん休憩。

今度はガラッと趣好を変え、藤田まこと、橋幸夫の歌謡ショー。居上博とフラインメッツをバックにヒット曲が次々と歌われた。

最後に挨拶に立ったママは「明日から一年生の積りでやります」と言葉少なく、会場もわれんばかりの拍手に、しばし感激をかみしめ、午後九時に閉会となった。

●神戸を福祉の町に 〈74〉

家庭学の提唱

橋本 明 〈社団法人「家庭養護促進協会」事務局長〉

昨年の秋に協会の主催で「家庭を考える」というテーマで公開講座を開いたところ、50人定員の会場に90人近くもの受講希望者から参加の申し込みをいただいた。

受講者のうち30人ほどはケースワーカー、婦人相談員、母子相談員、施設の保母、指導員など福祉活動の現場でそれぞれさまざまな家庭や親子の問題にかかわっている人たちで、40人ほどが家庭の主婦、里親、学生など。

講座は「子どもと家庭―家庭によって子どもはどう変わる？」

熱心に耳を傾ける参加者たち



聖和女子
大学教授
黒田実郎
氏「世界
の家庭と
日本の家
庭―東西
暮らし方
の違いを
さぐる」京
都大学助
教授 米
山俊直氏
「老いと
家庭―あ
なたの老
年は大丈

夫か？」老年を考える会 飯田よし枝さん、「家庭はどう変わるか―私の描く21世紀への家庭像」大阪社会事業短期大学教授 服部正氏。そして最終回は協会制作の映画「親と子の絆を求めて」の上映と参加者の懇談パーティーで締めくくった。とくに最終回は参加者が少人数ずつのグループに分かれ「私にとって家庭とは？」というテーマで熱心な話し合いが続けられ、大変実りある講座となった。

戦後、日本では都市化の進行と共に核家族が増加してきたといわれるが、統計からみるかぎり、日本で最初に世論調査が実施された大正9年にはすでに夫婦と子どもだけの世帯が全世帯の半数を越えており、核家族は戦後急速に増えたものではないことがわかる。ただ、昭和30年を境にして一世帯の家族数は急に減ってきており、それがこの20年ほどの間にさまざまな福祉問題を生みだしているように思える。

アメリカやイギリス、北欧諸国などでは今世紀の初頭からすでに家族福祉サービスが実施されているが、これは欧米においては早くから核家族化がすすみ、単身世帯や老人だけの世帯、夫婦と子どもだけの世帯が多く、家庭の不安定さを支えるさまざまな福祉サービスが早くから行なわれてきたのであろう。しかし、このような家族を中心とした福祉活動の発展は、家庭の崩壊を未然に防ぐと共に、地域の中での在宅福祉サービスに福祉の力点が置かれるようになってきたからでもある。

家庭は人間の成長にとってもっとも大切な場所であり

暮らしを守る最後の砦でもある。核家族化とそれに伴う福祉問題の発生は、人類史的にみると農業社会から産業社会へ移行する過程での必然的な現象だと指摘する人もあるが、もろくなった家族を支えるための福祉サービスは一九八〇年代にはより一層強められることが必要であろう。

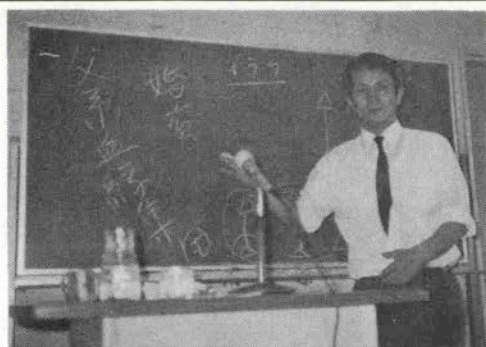
このほど神戸市市民福祉調査委員会から市長に出された答申にも家庭福祉の推進がとりあげられており、兵庫県でも家庭づくりの行政として積極的に取り組む方針を打ち出し、「家庭づくりの手引草」を作製し、広く配布している。ただ、家庭という個性的なプライベートな領域に行政としてどんな形でかわりをもつかは大変難しいことだし限界もあるであろう。

住みよい地域づくりは、その地域を構成するそれぞれの家庭づくりと切り離して考えられないが、また健全な家庭は住みよい地域と共にあるものである。今日の家庭のさまざまな問題は、どんなに努力をしても家族だけの力では解決しえないことも多く、失業、離婚、蒸発、病気、入院などのちょっとした波風がたてば崩壊に直面す

る家庭も多い。そんな時、地域の隣人の支えやばいしがあれば崩壊をまぬがれることもあり、行政の援助も大きな力となることもある。

アメリカには「Charity begins at home」（慈善は家庭から）という諺がある。これは自分の家庭をほったらかして、他人のためにという名目で奉仕活動や寄付活動に走り回っている人たちが皮肉ったものだが、他人の世話をやく前に足元の自分の家庭をしっかり守りなさい、といういましめの意味もこめられている。

家庭づくりというのは、やさしいようでなかなか難しい。家庭ほど個性的で、バラエティに豊んだ人間の集りもまた他にはない。不安定な家庭が多くなってきた今日21世紀への家庭づくりを福祉の視点からだけでなく、さまざまな観点から学問的にも系統的に研究していく、いわゆる「家庭学」のような新しい学問の分野が必要になつてくるように思われる。そしてこの家庭学の研究や理論をこれからの家庭づくりや地域づくりに生かすようなものに育ててほしいものである。



上 米山俊直先生の講義「世界の家庭と日本の家庭」
中 飯田よし枝さんのお話「老いと家庭」
下 「私にとって家庭とは？」というテーマで討論会